

修士を終えて

平成15年度修士卒業 工藤 洋子

修士の2年間、いつもいつも追われている毎日でした。環境適応能力の低い私が、目標のために全てを変えたのですから、1つ1つが大変苦しい毎日でした。そんな私を支えて下さったのが、研究室の皆様はじめ、本当に多くの方々です。

この2年間で、本当にたくさんの「出会い」がありました。研究では、地図を片手に高齢者の家を訪問し、知らない町をウロウロと歩き……いいえ走りまわりました。夏の暑い盛りでしたので、汗が滝のように流れ、家へ到着する頃にはそれはもう、ひどい顔でした。その私を快く受け入れてくださり、訪問先では、質問紙以外のお話もたくさん教えて頂きました。高齢者の方々は、何かに挑戦している方、趣味活動を広げている方、介護を抱えている方、そして、何かをしても何も埋まらない、孤独感を抱えてそれでも毎日を当たり前のように、当たり前だと思って生きている。多くの問題を抱えながら、それでも今を必死に大事に生きていました。私の事をよく面倒をみて下さった高齢者が、私に言いました。「出会いって素晴らしいことよ。だからこそ大事にしたい。」今の私があるのも、そのような高齢者の姿、温かい言葉があったからといっても過言ではありません。

これからの高齢社会に、私はいったい何が出来るとか、何をしたらいいのか、考えています。

そして今、ジャンルを問わずいろいろな事に手を出しています。環境適応能力が低いにも拘らず。そこでまた「出会い」があり、学んでいく、幸せなことだと思います。忙しくて苦しい大変な2年間。しかし、私は大切な事を学びました。この多くの「出会い」を与えて下さった、先生方、研究室の皆さんに本当に感謝しています。本当にありがとうございました。私も、これからまだまだ課題がありますが、少しずつ歩いていこうと思います。本当にありがとうございました。